

水にかかわる環境意識

Q. あなたの家の近くの水辺環境はどのように変化していますか？

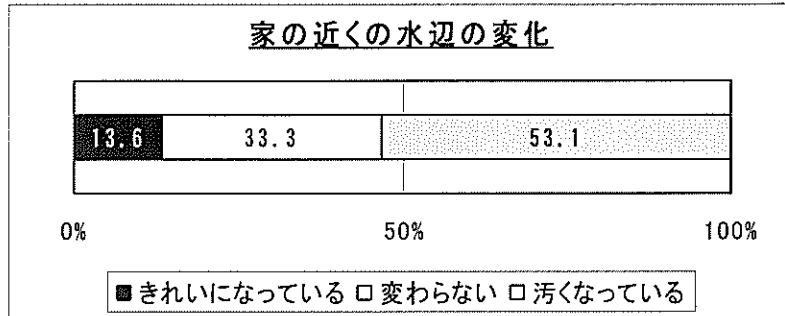
◇全体では5割強が『汚くなっている』と回答

◇水辺が『きれいになっている』がもっとも多かったのは大阪圏（14.9%）

家の近くの水辺環境の変化について聞いたところ、5割強が『汚くなっている』と回答。

『きれいになっている』は13.6%でした。

居住地別で見ると、『きれいになっている』がもっとも多かったのは大阪圏（14.9%）。逆に『汚くなっている』は中京圏が5割強（55.6%）に達しました。

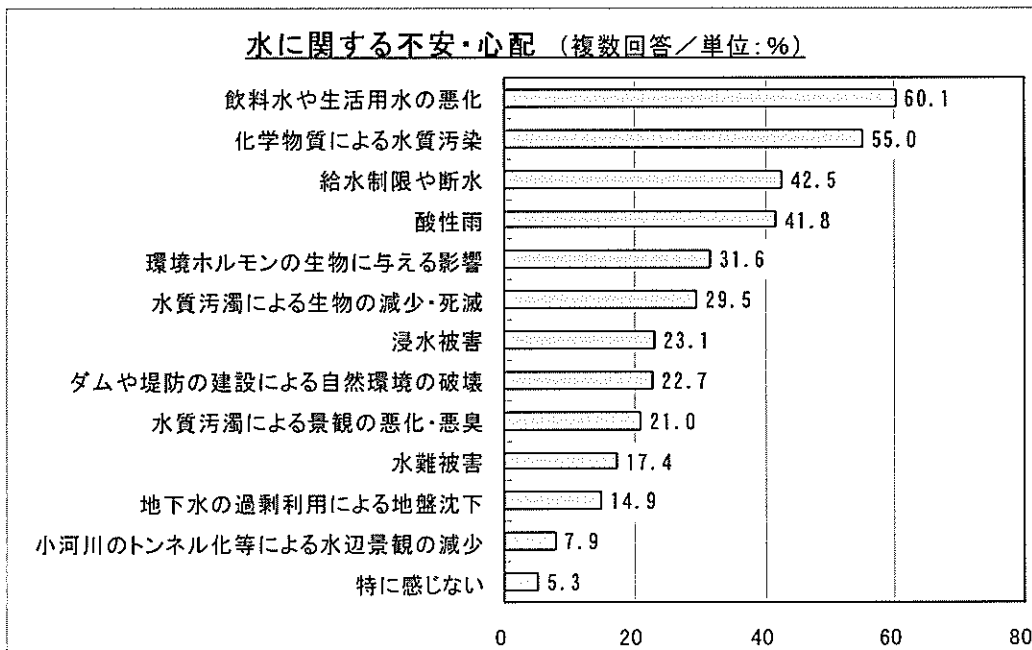


Q. 水に関して日頃不安や心配を感じていることは？（13 択／複数回答）

◇もっとも不安なのは『飲料水や生活水の悪化』で6割

水に関して日頃から不安を感じていることを聞きました。

トップ3は『飲料水や生活水の悪化』（60.1%）、『化学物質による水質汚染』（55.0%）、『給水制限や断水』（42.5%）でした。

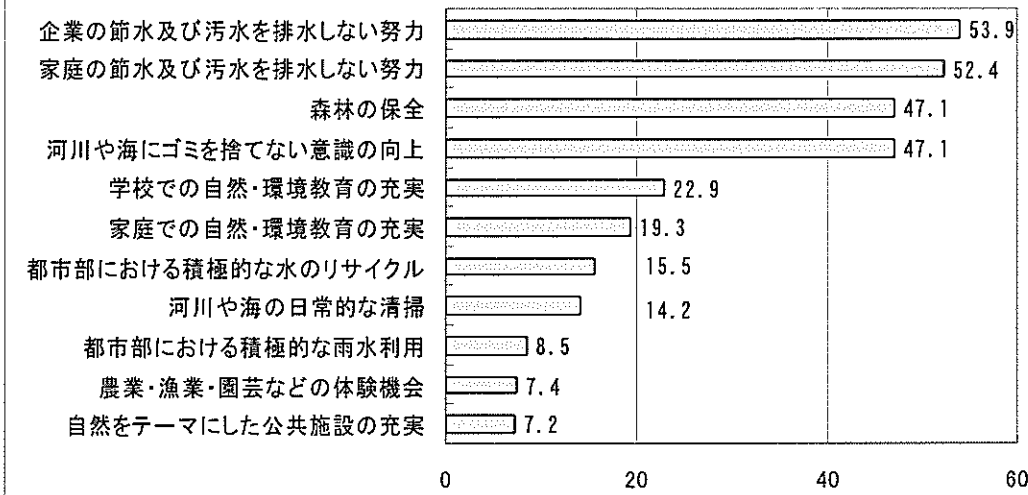


Q. きれいで安全な水を残すために必要なことは？（11 択＋その他答）

◇企業や家庭において『節水・汚水を排水しない努力』がトップ2

『企業の節水・汚水を排水しない努力』（53.9%）、『家庭の節水・汚水を排水しない努力』（52.4%）、が過半数に達してトップ2でした。企業や個人の心がけを重視している姿勢がうかがえる結果でした。

きれいで安全な水を残すために必要なこと
(複数回答/単位: %)

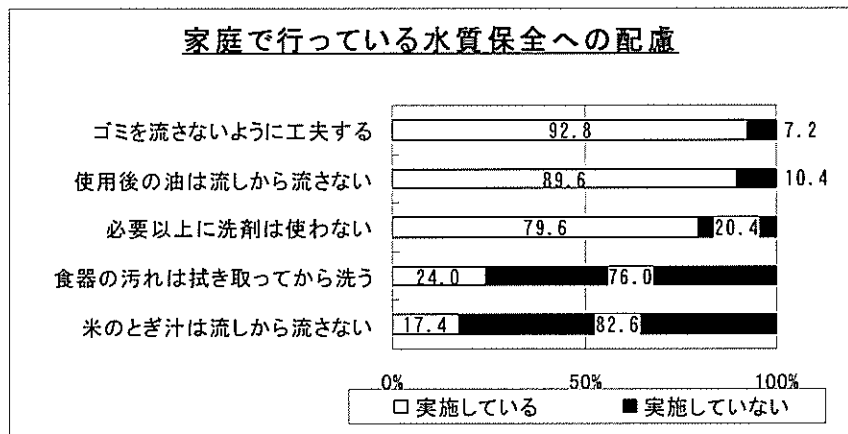


Q. あなたの家庭で行っている水質保全への配慮は？

◇「排水口からゴミを流さない工夫」は 92.8% の家庭で実施

各家庭から出る汚水の量はそれほど多くはなくても、それが合計されれば自然への大きな負荷になります。家庭における水質保全への第一歩は、汚物を外部へ出さないことです。

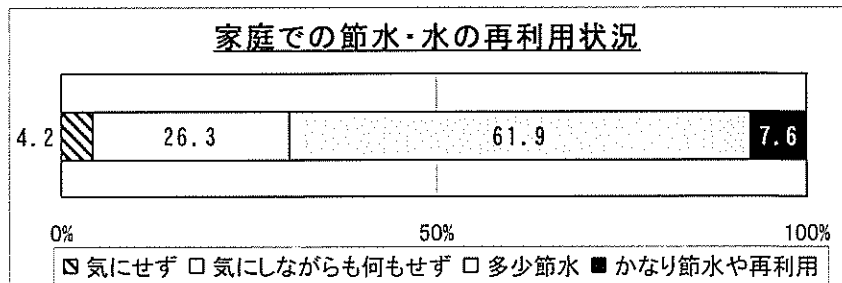
実施率が高かったのは、「排水口からゴミを流さない工夫」(92.8%)、「使用後の油を流してから流さない」(89.6%)でしたが、この結果は、ゴミや油を流してから流す人が1割程度いるということになるわけです。これを多いと見るか、少ないと見るかは微妙なところと言えるでしょう。



Q. あなたの家庭ではどの程度節水していますか？

◇多少なりとも節水や水の使い回しをしている家庭は 69.5%

家庭での節水や水の使いまわしについては、『かなり節水や水の再利用をしている』が 7.6%、『多少は節水している』が 61.9%で、7割弱の家庭で何らかの節水や水の使い回しをしているという結果でした。

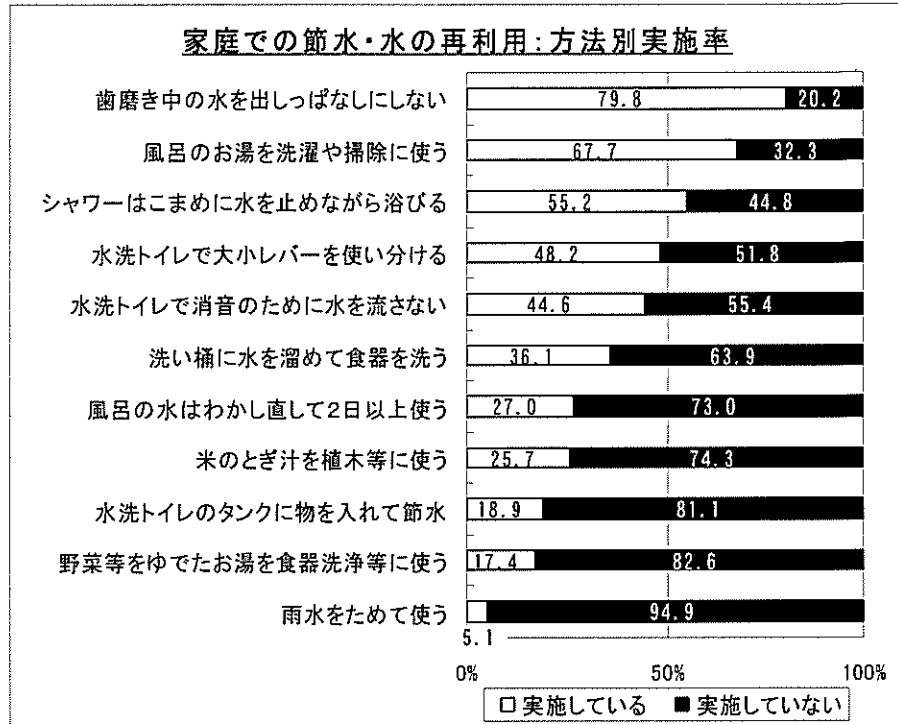


Q. あなたの家庭の節水方法は？

- ◇『歯磨き中の水は出しばなしにしない』は8割近くの家庭で実施
- ◇『雨水をためて使っている』家庭は5.1%

節水に効果がある11項目について、家庭での実施状況を聞きました。

もっとも実施率が高かったのが『歯磨き中の水は出しばなしにしない』で79.8%。『風呂のお湯を洗濯や掃除に使いまわす』（67.7%）、『シャワーはこまめに止めながら使う』（55.2%）も5割を超える実施率でした。比較的实施率が低かったのは『水洗トイレのタンクに物を入れて節水する』（18.9%）『野菜をゆでた湯を食器洗浄等に使いまわす』（17.4%）などでした。都市部での有効利用が提唱されている『雨水の利用』については、5.1%の実施率でした。



Q. 水にかかわることで知っていること、経験のあることは？

- ◇半数に達してない『使っている水の水源を知っている』、東京圏では認知率3割強
- ◇中京圏で経験率が高い『近くの川等の清掃を手伝ったことがある』

私たちの生活に1日たりとも欠かせない水道の水。ところが『使っている水の水源地を知っている』は半数に達しない46.9%でした。特に東京圏では33.5%と低い認知率にとどまりました。『使った水の排水先』の認知率はさらに低く、全体で27.4%でした。

一方、小さな水質保全行為とも言える水辺の清掃については、全体で21.2%が『近くの川等の清掃を手伝ったことがある』と答えました。特に中京圏の経験率が高く（29.4%）、東京圏（14.3%）とは約15ポイントの差でした。

